

# エデュスクラム ～自律的、協働的な学びを支えるプロジェクト学習～

## エデュスクラムとは

自律的、協働的な学びを効果的に実践するためには、様々な工夫を授業に取り入れる必要があります。例えば、「どのように学習者の参加意欲を高め、興味・関心を引き出すか」「どうすればチーム活動を滞りなく、かつ特定の学習者のみに偏ることなく進行させることができるか」「どうすれば活動を通じて経験したことを学習者の『学び』につなげることができるか」などです。

エデュスクラムは、これらを実現するためにオランダで考案された学習法です。エデュスクラムを活用することで、学習者が課題解決に向けて、一人一人が役割を担い、相互に連携し、お互いの学習を調整し合いながら学習を進めていくことができる良さがあります。

## エデュスクラムで使用するもの

### (1)学習の手引き<ブック>

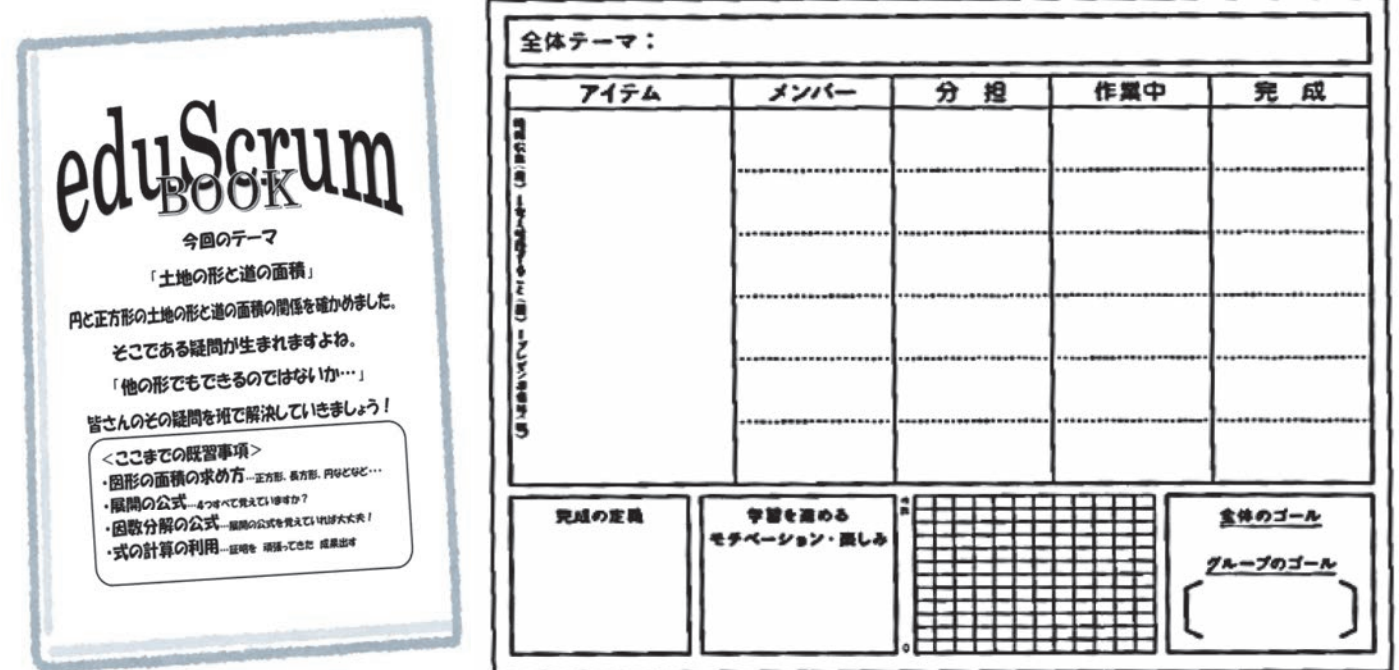
教科書や学習の内容に関する補助資料等を基に作成した<ブック>を、児童生徒たちが学習を進める上での指針として活用します。この<ブック>には、学習のテーマや問題の背景、調べること、調べ方、まとめ方等が盛り込まれています。

### (2)付箋 <アイテム>

「調べること」「考えたり整理したりすること」「最後の実行に向けてまとめたり表現したりすること」を、課題を解決するための<アイテム>として、付箋に色分けして書き出します。

### (3)計画表<フリップ>

エデュスクラムの活動を支える計画表を<フリップ>と呼びます。アイテムの分担や作業の進捗状況等を一目で確認でき、相互に学習の調整を図ることができます。



資料 ブック (例)

資料 フリップ (例)



令和4・5年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校

## 研究主題

# 小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造

～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～

練馬区教育委員会教育長 堀 和夫

中央教育審議会では令和3年の答申において、児童生徒一人一人の可能性を引き出し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手を育成することの必要性を改めて示しました。これらの実現に向けて、学習者が自律的に活動し、他者と関わり合いながら協働的に学びを深めることがより一層求められています。

このような中、練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園では、令和4・5年度の2年間にわたり、研究主題を「小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～」とし、オランダで開発された教育法「エデュスクラム」を取り入れた授業改善に取り組んできました。その結果、児童・生徒が課題解決に向けて進んで学習に取り組む姿や、協働して学習する良さを実感し、学習を深める姿が見られたことは研究の大きな成果と捉えています。

結びにあたり、2年間にわたり本校の研究に対し温かく指導いただきました、白百合女子大学 教授 中田 正弘 先生には深く感謝申し上げますとともに、本研究に携わられた 池田 和彦 校長をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさついたします。

校長 池田 和彦

中央教育審議会答申(令和4年12月)において、「新たな教師の学びの姿」が示されました。求められているのは、「令和の日本型学校教育」における「子どもたちの学び」と同様に、個別最適な学び、協働的な学びを通じた「主体的・対話的で深い学び」です。その実現に向けた授業改善において考えたことは、学習者の視点と授業者の視点を往還させること、学びの連続性をもつこと、「どのように学ぶのか」具体的な学びの姿を考えて授業構成をすることの3点でした。このような考えを踏まえ、小中一貫教育校の特色を生かし、「自律的」「協働的」な学びを育む授業の在り方について追究してまいりました。本日ここに、これまでの研究成果をご報告させていただくとともに、今後も新たな子どもの学びの実現に向けて、引き続き研究を深めてまいります。

本研究を進めるにあたり、白百合女子大学教授 中田 正弘 先生に懇切丁寧なご指導を賜りました。ありがとうございます。そして、研究の機会をいただき、様々なご指導・ご支援くださいました練馬区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

## 本学園のこれまでの研究発表

平成23～27年度

### 桜学精神

＝ 自らを成長させる心構えと実践力を養う小中一貫教育 ＝ 【全教科・全領域を通して】

平成29・30年度

### 児童生徒が自ら学びを進め、高め合う小中一貫教育の在り方

～『学び合う力』を涵養する授業改善の探究

令和4・5年度

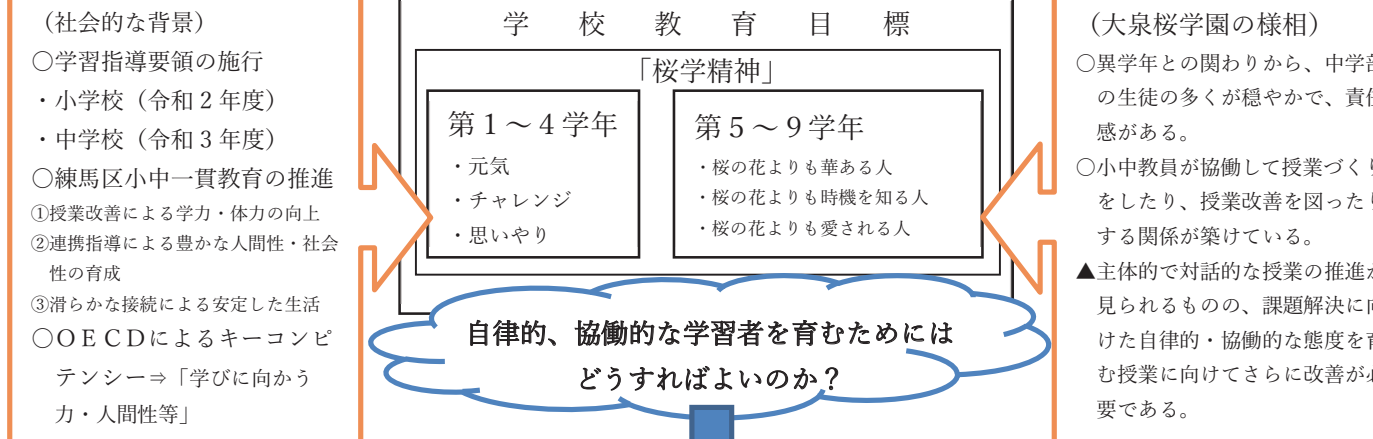
### 小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造

～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～

〒178-0061  
東京都練馬区大泉学園町9-2-1  
TEL 03-3924-1126 // FAX 03-5337-2295  
<https://www.nerima-tyky.ed.jp/sakuragakuen/>



# 研究構想



令和4・5年度 研究主題  
小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造  
～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～

## 【大泉桜学園における自律的、協働的な学びの定義】

### 【自律的な学び】

自己の学びに責任をもって授業に参加し、課題解決に向けて、適切に判断したり、調整したりしながら意欲的に取り組もうとする学び。

### 【協働的な学び】

探究的な学習活動を通して、他者と協力しながら、互いを尊重するよさに気づき、多様な考えを組み合わせ、学習を深めようとする学び。

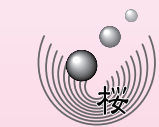
### 【研究仮説】

9年間を通して、発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムを活用した授業を実践することで、児童生徒は、学ぶ意義や有効性を感じ、主体的に学習を深められるようになるだろう。また、他者と学ぶ良さ、他者と協力する良さを実感できるだろう。

## 【研究の方法】「授業実践⇄協議のスパイラルを生かして、エデュスクラムを活用した授業を創造する」



児童生徒へのエデュスクラムを用いた授業についてのアンケートを実施  
(1)令和4年9月 (2)令和5年3月 (3)令和5年7月 (4)令和6年3月⇒変容から成果と課題をまとめる




練馬区立小中一貫教育校 大泉桜学園

# エデュスクラムの進め方

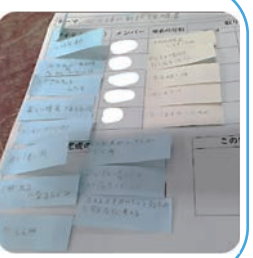
**STEP 1**  
ゴールを設定

ブックを使って、何を学習するのか、どんな問題があるのかを十分に話し合います。大きなテーマは 教師から提示し、全体のゴールはブックを活用しながら、教師と児童生徒が話し合って検討していきます。



**STEP 2**  
検討・分担

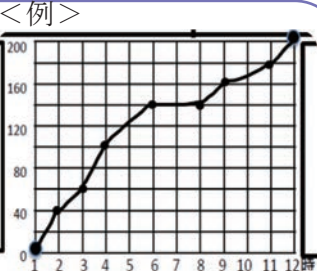
ゴールに到達するために必要な「調べること」「考えたり整理したりすること」「最後の実行に向けてまとめたり表現したりすること」を検討します。付箋を3色に分け、アイテム（課題を達成するために出したタスク）の性質によって使用する色を変えます。また、作業の途中に新しいアイテムが出る場合があるので、その都度チームの中で話し合いながら分担を行っていきます。



**STEP 3**  
完成の定義の決定


それぞれの分担がどのような状態になったら（作業の進み具合）、完成に至るかの基準を設定します。「作業中」から「完成」に付箋を移動させるときには、完成の定義を基準に、メンバーに自分が分担して取り組んできた内容を聞いてもらったり見てもらったりします。

＜例＞  
**完成の定義**  
自分が発表する内容を他の職員も説明することができる。



**STEP 4**  
自分たちで学習調整

フリップの中などに、学習の進み具合を表すグラフを作ります。例えば、グラフの縦軸をアイテム（付箋）の合計点、横軸を授業時間という様にします。自分たちの学習の進み具合を、自分たちの取り組み方という視点から確認することを可能にしています。




プロジェクトのゴール

# OIZUMI SAKURA GAKUEN これまでの研究例




**小中一貫教育校の取組**



**大泉桜学園の歩み**

- ・小中一貫教育校とは？
- ・大泉桜学園の特色
- ・施設紹介


**研究教科：国語科**



**6 学年**

『私たちにできること』  
具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう


**研究教科：社会科**



**8 学年**

『日本の地域的特色』  
明るい未来をつくるのは私たちだ！日本が成長するための案を考えよう！

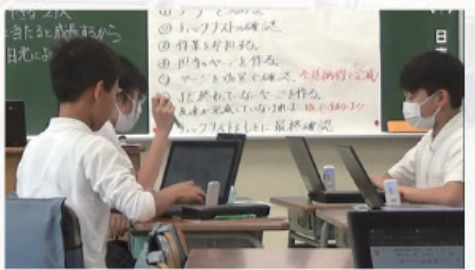
**研究教科：算数・数学科**



**9 学年**

『式の計算の利用』  
土地の形と道の面積を求め、その関係を確認しよう


**研究教科：理科**



**6 学年**

『植物の成長と日光の関わり』  
協力して問題を解決しよう


**研究教科：音楽・図画工作  
技術・家庭科**



**4 学年**

『キャプテンキッド』  
アンサンブルを楽しもう


**研究教科：保健体育科**



**7 学年**

『健康な生活と病気の予防』  
班でまとめて発表しよう

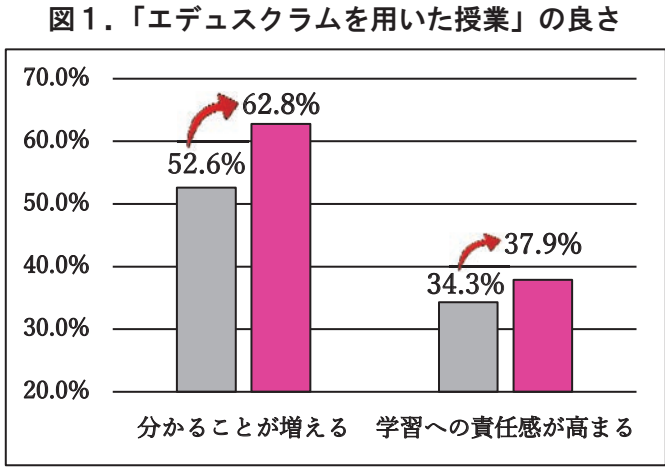
**研究教科：外国語科**



**8 学年**

『Let's Read 1  
Such's White Horse』  
物語の内容をグループで整理し、自分たちでリテリングしよう

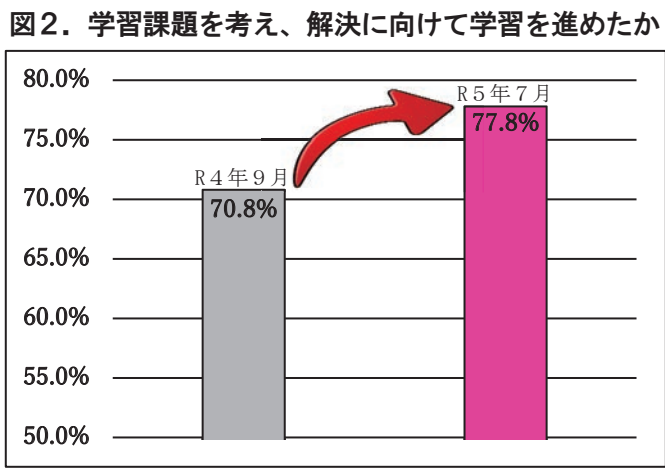
# 成果と課題



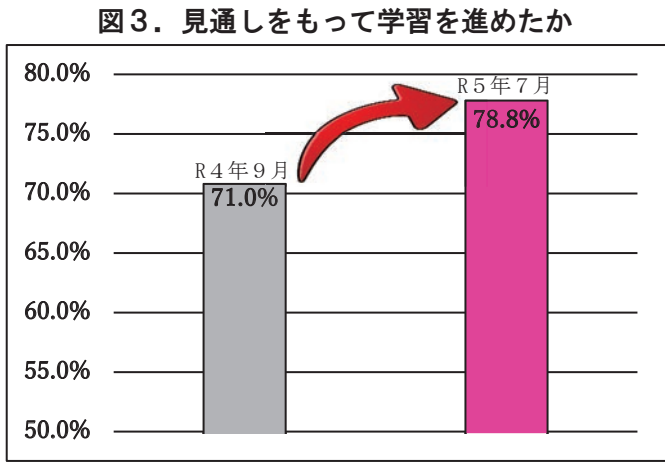
**成果**

○図1は、エデュスクラムを活用したことでどんな良さを実感したかを児童生徒が回答した結果である。「分かるが増える」という良さを実感した児童生徒の割合が増加した。エデュスクラムを用いた学習を繰り返すことによって、自律的、協働的な学びが実現し、児童生徒の知識の定着につながったと考える。

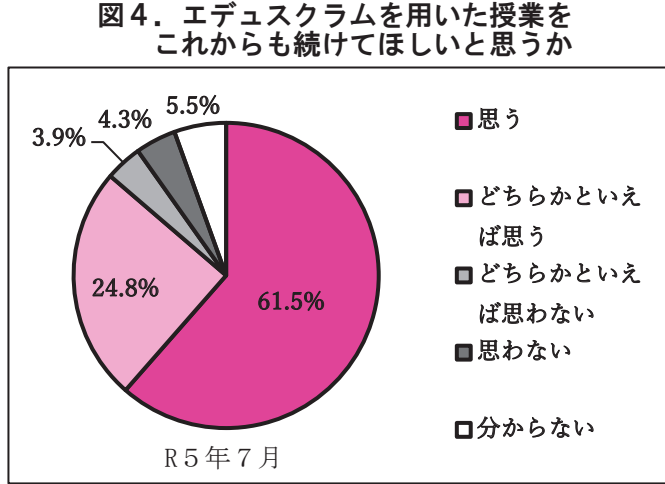
また、本校では、グループ学習を進めた際に、他人任せになってしまうことが課題であった。本研究を通して、グループ学習の際に、一人一人が取り組むべき役割が明確になり、責任感をもって学習に取り組んだという実感をもてるようになった児童生徒が増加した。



○図2、3より、エデュスクラムを用いた学習によって、児童生徒自らが学習課題を設定し、見直しをもって課題解決に向けた学習活動に取り組めるようになった児童生徒の割合が増加した。エデュスクラムは協働的な活動を促進するとともに、主体的に学習を深めることに効果的であると考えられる。



○図4より、今後もエデュスクラムを用いた学習を行うことに対して肯定的な意見をもつ児童生徒の割合が86.3%であった。今後もエデュスクラムを効果的に学習に取り入れた授業改善について研究を深めていく。



**課題**

○エデュスクラムを用いた授業を行う中で、毎回の授業に取り入れることの難しさが課題として挙げられた。

⇒各教科におけるエデュスクラムを取り入れやすい単元や領域をさらに明確にしていく必要がある。また、9年間を通して、系統的に積み重ねていくために、より発達段階に応じた工夫が重要となる。

○授業内での教員の関わり方についても今後検討する必要がある。

⇒児童生徒の学びを深めるためには、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、児童生徒が自ら学習を進めていけるような環境を整える教師の関わり方について研究していく。